



平成 19 年 6 月 22 日

各 位

会社名 株式会社アーレステイ
代表者名 代表取締役社長 高橋 新
(コード番号 5852 東証第2部)
問合せ先 執行役員経理部長 樋沼 国寿
(TEL 03-5332-6001)

(訂正)平成 19 年 3 月期 決算短信の一部訂正について

平成 19 年 5 月 14 日に発表いたしました「平成 19 年 3 月期 決算短信」の一部に訂正を要する箇所がありましたので、下記のとおり訂正いたします。訂正箇所には 線を付して表示しております。

記

1. 経営成績

(1) 経営成績に関する分析 (3 ページ)

(当期の経営成績)

(訂正前)

< 前略 >

アルミニウム事業では、好調な自動車産業の需要増加に伴いアルミニウム地金の販売重量が前期に比べ 14.7%増加となり、地金価格の高騰に伴う販売価格上昇と高品位製品の販売拡大によって、売上高は 7,806 百万円 (同 55.9%増) となりました。収益面においては、生産性の改善等を進めたことにより、重油価格の上昇、原料価格の高騰の影響を吸収し、営業利益は 436 百万円 (同 86.5%増) となりました。

< 後略 >

(訂正後)

< 前略 >

アルミニウム事業では、好調な自動車産業の需要増加に伴いアルミニウム地金の販売重量が前期に比べ 12.0%増加となり、地金価格の高騰に伴う販売価格上昇と高品位製品の販売拡大によって、売上高は 7,806 百万円 (同 55.9%増) となりました。収益面においては、生産性の改善等を進めたことにより、重油価格の上昇、原料価格の高騰の影響を吸収し、営業利益は 436 百万円 (同 86.5%増) となりました。

< 後略 >

(2) 財政状態に関する分析 (4 ページ)

キャッシュ・フローの状況

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

(訂正前)

投資活動の結果使用した資金は、前連結会計年度と比較して 5,299 百万円減少して 8,878 百万円となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出 14,676 百万円と有形固定資産の売却による収入 5,218 百万円によるものであります。

(訂正後)

投資活動の結果使用した資金は、前連結会計年度と比較して 5,299 百万円減少して 8,878 百万円となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出 13,939 百万円と有形固定資産の売却による収入 4,481 百万円によるものであります。

(4)連結キャッシュ・フロー計算書(15ページ)

(訂正前)

	前連結会計年度 (自 平成17年4月1日 至 平成18年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日)
区分	金額(百万円)	金額(百万円)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	13,114	14,676
有形固定資産の売却による収入	594	5,218
投資活動によるキャッシュ・フロー	14,178	8,878

(訂正後)

	前連結会計年度 (自 平成17年4月1日 至 平成18年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成18年4月1日 至 平成19年3月31日)
区分	金額(百万円)	金額(百万円)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	13,114	13,939
有形固定資産の売却による収入	594	4,481
投資活動によるキャッシュ・フロー	14,178	8,878

注記事項

(セグメント情報)

a.事業の種類別セグメント情報(26ページ)

(訂正前)

<前略>

3.「消去又は全社」に含めた金額及び主な内容は以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (百万円)	当連結会計年度 (百万円)	主な内容
消去又は全社の項目に含めた 配賦不能営業費用	1	7	親会社本社の管理部門に係る費用
消去又は全社の項目に含めた 全社資産の金額	6,280	2,664	親会社での余剰運用資金(現金及び有 価証券)及び管理部門に係る資産等

<後略>

(訂正後)

<前略>

3.「消去又は全社」に含めた金額及び主な内容は以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (百万円)	当連結会計年度 (百万円)	主な内容
消去又は全社の項目に含めた 配賦不能営業費用	1	二	親会社本社の管理部門に係る費用
消去又は全社の項目に含めた 全社資産の金額	6,280	2,664	親会社での余剰運用資金(現金及び有 価証券)及び管理部門に係る資産等

<後略>

以上